(七日夕刊)
磐城新聞
休刊　大祭日 第一 第三日曜
定價　一部二錢　一ケ月六十錢　郵税十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町十六番地　磐城新聞社　電話五六四番

思ひ出草 (17)

古いスクラップブツクから　哲村

◇昨朝の大地震では至る處色々な悲喜劇が行はれたが時刻六時十分と云ふ早朝であつた爲朝寢坊の連中などは無躾なわざものをブラ下た儘裸足で飛び出すと云ふ騷ぎ

◇中にも新田町邊は商賣柄未だ眞夜半の寢入りばなであつたから溜らない搖り起されてそれと知るや悲鳴を上げ乍しどけない姿で狭斜の文字をそのまゝ至つて狭い道路へ飛出し右往左往の狼狽振り

◇紅紫とりぐの腰卷が縦横に飛んで玆許時ならぬ落花狼籍の体それにしてゝ！「夜電燈の下で眺めると綺麗だが眞つ晝間白粉のはげた處を見ると餘り感服したものでもありませんなあと」誰やらが今更大發見

◇「醉つてゐて良く覺えはねえが餘り小癪な事を云ふので何でも咽喉を締た樣な氣がするんだて」

◇話しはチト苦いが小野縣議が東山から歸る汽車中での武勇傳一席、物騒々々

◇─雨は降つて來るしヤレ、洗濯もんなお濡る。背中で餓鬼泣く飯焦げる─笛太鼓入りの名物盆踊歌。平町の若衆が吹き込んだ蓄音機の賑ひも漸くお盆らしい氣持になつて來た

◇今日の日曜にして降らず而して曇らずんば小名濱、四倉の賑ひ蓋し想ひ半に過ぐるものがある　(昭和二、八、七日)

◇二十日の朝小名濱問題や何かで上京する高岡元代議士と水戸へ行く白井磐銀専務やそれからこれも丈翁の快氣祝ひに列席すべく植田から乘り込んだ安島元代議士や金成植電社長の名士揃ひが一しよになつて車中の談話漸くあぶらが乘つて來る

◇そのうち白井磐銀専務が何かの事で「高岡さんも案外詳しいんだなあ─」と感心とも皮肉ともつかない半疊を入れると高岡さん即座に前の安島さんを指して「こゝが教へるもんだから……」と巧に元から知つてたんぢやない所以の責任廻避(?)をやるので温厚な君子安島さん、敢て雪冤の必要もない、と云つた調子で只微笑

◇周圍の空氣それ既に斯の如くこんどは金成植電王一流の凄いアイロニーが飛ぶではないかと車內一同ハラ／＼する

◇高岡さんや安島さんが數の謹嚴な年齒に渐うしたあどけない處を見せてるうちに汽車は一同の笑ひ聲をのせて青螺を浮べた樣な明媚な天妃山のあたり風を截して南へ驀進する、車內に取りつけてある電扇の唸りも涼しい　(同八、二三日)

◇何れの黨派にも法華信者の樣に凝り固まつた譯はゆる愛黨の士、と云ふのがよくあるためし、その熱質すべくその稚氣愛すべきものあるがその結果時に些か困る事をし出かすので弱る

◇これも己むに己まれぬ愛黨心から出た間違ひと見るべき實例の一つ、二十二日平町の聚樂館で催された政友會の演説會最中微醺の容分で樂屋へ現れた勞働者風の怪漢がある、どうか辯士の紹介役をやらせて貰ひ度い、と安島會長や井上縣議を散々手古摺らせた上今度は折柄堀切代議士の地租移讓論に耳を傾けてゐる兒玉代議士にしきりと水を向ける

◇愛黨先生當日の盃會振り悉皆感激してしまひ對談中樂屋ばなしにあるまじき大聲を發する、兒玉特派員しきりに之れを制止するが中々納まらない、迄は未だ良かつたが今度は醉餘のしどけない風態を舞臺に現して何やら怒號し始めたので會場はこの異樣の闖入者を迎へて時ならぬ大賑ひとなつた

◇し方なしに兒玉代議士が勇敢にも此の誤れる純眞可憐な愛黨君の胸倉を取つて場外に押出すと云ふ騷ぎ、あとで知れたがこの愛黨君の怒號は及ばず乍ら一の野次封じを試みたものであると云ふに至つては一層愛らしい話ではある

◇過ぎたるは尚及ばざるより始末の惡い事を如實に證明した皮肉な悲喜劇の一幕は無事閉ぢられた、處で此の愛すべきわが愛黨先生今頃は何處にどうして豫て若郷に容れられずの悲哀を觀じてゐる事であらうか　(同八、二四日)

─(今月今日)─

△我軍青島を占領す(大正三) △若槻首相松島事件の證人として訊問を受く(同一五) △橋本左門刑せらる、越前藩士松平春岳に重用さる王事に奔走す伊井大老の忌む處となり禍に羅る(安政六) △狩野探幽歿す年七十三狩野家中興の祖名は守信剃髮して探幽齋又は白蓮すと稱す畫を以て家康の寵遇を受け諸侯亦之を賞す(延寶二)

映畫欄

蒲田から 若人よ なぜ泣くか

佐藤紅綠原作

×

「僕達が家にゐてはお父樣に御心配をかける。御前の心は日に／＼荒む僕は陰鬱な日を送らなければならない」

茂は妹梢と共に家を出る決心をした懷しの我家と別れる悲しみも、新しき天地に兄と共に生きる事によつてせめても慰められるのであつた。

×

郊外に一軒を借りた茂と梢とは淋しい中にも平和だつた、隣家に小原の一家がゐた、父嘉六の無頼に厭きて子供の平吉と弓子とは溫順な兄弟だつた、嘉六は泥醉して弓子を賣らんとした彼女は知り合ひの茂の家へ泣き込んだ、平吉と茂とはこの時始めて識つた─

平吉は東洋新聞に勤めてゐた。彼は妹から茂が就職口を探してゐる事を聞いたので自分の社へ編輯助手として紹介しようとした、小閑であることや薄給であることも話した。この新聞社には意外にも兒島が編輯長としてゐた簡單な採用の法で兒島は親友茂を救つた營業部長で社長代理の赤澤は兒島の試驗振りに驚いた

兄の月給五十圓、その不足を妹の內職で補ひ生活戰線に苦鬪を續けながら茂兄弟は共に幸福だつた、しかし隣家の平吉兄弟は餘りに悲慘だつた。平吉は自己の無力を嘆じて妹に詫びた、弓子は父の事業の爲めにと總てを諦めて賣られて行こうと泣いた。事情を聞いた茂は腕力に訴へても弓子を保護すると激した。今の茂には弓子も實妹の如く感じられてゐた、梢は兄の妻に弓子を望んでさへゐた。

歌子は相變らずモダンマダムの大宮夫人元子や二葉と共に香取を誘ひダンスホールなどへ出掛けた、香取は茂や兒島の親友で今は學校を中途退學し、元子達の世話になつてゐる氣の弱い男だつた。

東洋新聞に勤めた茂は兒島に依頼されて元子の夫大宮淸八を訪問した、理由は今暴露しつゝある疑獄の中心人物と目されてゐるためだつた。けれども大宮の老猾なる甘手段に乘る多くの新聞記者連を見るに付け、茂は現在の自分の生活を嘲らずにはゐられなかつた。

×

生來氣弱い香取は元子達から金錢の保護を受ける事が不快で、寸時も早くその手から逃れようと焦つた。そして彼は親友の兒島の許を訪ねた、彼が逃げて來たと知るや、快く金策してやつた、香取はその金で房州の友人の家へ仕事しにと出かけた、彼は作家だつた。

茂が或る日歸宅して見ると、梢は弓子の家が引越したと云ふ。　(續く)

講談 赤鞘安兵衛

東京　桃川燕二演
村田月光畫
(六九)

左京太夫に對し屹と召拘へると御受合申し上げたのに、六郎右エ門から御免蒙むられたでは自分の立場を失ふ、サアどうも采女困つたの困らないのぢやない。其日は强いてでも云はず六郎右エ門を歸しましたが、二三日置いて六郎右門が門人に稽古に來る、其時に─「菅野氏、粗酒一献相呈したいどうぞ手前屋敷へお立寄り下さる樣に」又例の仕官の一條を話すだらう、迷惑至極だとは思つたが辭退はなり兼ねる─「心得ました、稽古濟み次第に邪魔仕る」と答へて置いて、八ッ時分荒増し御稽古も濟んだから澤田采女殿のお小屋へ出る─「サア此方へ」と奥まりたる座敷に案內、山海の珍味を並べての馳走、珍らしく女中達五八も出て酒間を斡旋致します、幾度も此處へ出入つて酒を出されることもその都度だが、常に武張つた話ばかりで女切れなどは出た事がない、六郎右衛門物の不思議に感じ居ると………「アイヤ菅野氏、今日は手前少しく內祝ひの儀がござつて呼立て仕つた武邉の物語りは又後日を期し今晩は打寬ろいて飲み明かしを願ふ─」飲み明かすと云はれては安兵衛だと、飛び付いて喜ぶところだが、六郎右衛門は聊か迷惑だ、併し內祝ひの爲めの酒宴と云はれて見ると、座を外すは失禮に當るモジ／＼しながら相手になつて居ります勿論澤田采女も大した上戸ではない

まあ菅と似たか寄つたかの酒ければども瘀が長かつた爲め兩人共可成りの酩酊漸く盃盤が納まつた時─「お茶一つ、此方へ」と采女が先に立つて更に奥へ案內、茶室かと見ると只の座敷、入つて六郎右衛門先づ眼に付いたのは、彼方の逃に屏風半双文字のある屏風だがそれは逆さに立つてある、逆さ屏風は死骸に立てるもので此上の不吉はない、采女自身が屏風を立てるものでないから、是れは用人など取急いだ儘の粗忽だらうが、何にしても變だと氣にしながら座に就きます、采女は夫れに氣付かして、をすゝり─「扨て菅野氏、手前はどうも一世一代の粗忽を致した、ト云ふものは先頃我が君から是非に其の許を召抱える樣とのお望み、殿の餘りな熱心に動かされて、手前身に替わ菅野氏に奉公仕みをたさせ申すと受合つたのでござるが全体ならば尊公のお心持ちを承はつた上御答わするが當然で、然うなうては手前が尊公を見くびつた形ちに當る、左れども尊公も御存知の通り、我君は至つて性急なお方。何れ菅野氏の御胸を承はつて御答え仕るとは御性質を知る故、申上げ兼ねて早呑込みに右の如くお申上げた、然るに尊公は老年且忠臣二君に仕わずの格言を守つての斷り、是れも道理至極で再び御勸めは致しにくい、依つて手前も武士、武士らしき覺悟を仕つた內祝ひの酒もりは此の世の別れの酒もり、これで思ひ置く事もござらねば切腹仕つて一ッは我君への申譯、又一ッには尊公を侮つた詫、どうぞ采女生害を御檢分下し置かれたい」上着を取ると下には無紋の白いもの逆さ屏風の前に靜かに座を占めます此の場面は如何にも狂言染みて居るが決して狂言でない、澤田采女眞實正銘腹を切る積りがおつて歯から外へ漏れた事は何處までも貫徹させねばならならない、若し貫徹しなければ命を以て夫れに代わる、自殺は卑怯者のすることだと申しますが一概に然うも云へない樣です再び得られない一命を棄てる是程大事はございませんがのと見ね家來方一人茶の給仕にも參るものはない諸肌を押くつろげて短刀をギラリ……。

拈華微笑

◇是非首位のを。の意味ぢやない成るべくそれに近い處と云ふ意

◇あと一週間だ。毎日新候補が飛び出した處で知れてる

◇一浦一鯨を獲てさへ七濱の賑ひと謂ふ五十萬圓は大したものだ

◇青いきといき同樣不景氣で煙草の煙りが減らぬ事解つた

◇分擔金の率先決議、口は荒いが濱の人に限る

◇………◇

食堂擴張披露
季節向御料理種々
よせなべ五〇錢　貝なべ三〇錢　松茸どびんむし三〇錢　茶わんむし二五錢
なべ焼 支那そば しるこ　一〇錢均一 外數種 大勉强
美なとすし　四倉町新須賀町

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

國產特等毛糸
特價賣出し！
壹オンス金拾參錢
磐城平町一丁目
教育玩具雜貨問屋　商號ひ屋
森下商店

夜間診療
胃腸　內科 十二指腸蟲病 專門 內科部
梅毒　淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村產婦科醫院
(平南町電話一〇七番)

第二回長期裁縫講習會
△科目(裁縫ヲ主トシ希望ニヨリ作法、料理法、編物生花等無料ニテ教授ス)
△會費(一ケ月金壹圓)
△會場(平陽女學校)
△服裝(隨意)
△年齡(制限アリマセン)
△入會(何時デモ入會出來マス)
△特典(講習六ケ月終了者ニハ證書ヲ差上ゲマス)
石城郡平町
平陽女學校
尙本校內に寄宿の便もあり但し食費一日二十七錢にして頗る低廉であります

節變り献立御知らせ
初秋の丸昌は松茸の料理
鮭の料理と芳醇な美酒で！
㊂ホール
南町本店　四丁目第一支店　四倉第二支店　電六八番

給仕採用
自轉車ニ乘リ得ル者二名入用、年齡十四オヨリ十六オマデ履歴書持參セラレタシ
平町驛前大通り
平運送合資會社
電話三二三番

北澤樂天全集豫約趣意書
秋もいよ／＼深くなりた互すみ心地よい時候になりました。さて今回我國漫畫界の泰斗として獨自の境涯に斷然異彩を放たれてゐる北澤樂天先生が一世一代の仕事として試みられた樂天全集が左記の方法で一般愛好者各位に頒たれる事になりましたが各位も御承知の通り先生は昨年八月佛國大統領の後援によりフランス巴里に於て先生の個人展覽會が開催され亦引き續き英米兩國に於ても同展覽會を催し、之れが爲め歐米の全天地に非常な人氣を博し我國漫畫界の權威を外國に知らしめたのである、先生の畫想筆致には他の追從を容さぬ剛健と諷刺が潑溂さが畫面全體に溢れ一點一角はすでに人生の縮圖をなし社會の羅針盤を形成し一齣は一齣に一閲は一閲ごとに人生裡面の生活內容が必行くまで無限に展覽されて行くのであります、實に之れは世を明るく愉快に所謂人生行路の指針と云ひうべきでありませう、秋は燈下親しむとか申しまして讀書三昧に耽るには絶好の時季であります、此の時此の際この一大至寶樂天全集が座右に飾られることは御家庭を一層明るく愉快に導く最も良き友ではないでせうか、此の好時季を見逃さず進んで御贊成御加入あらんことを切に御願致します。

樂天全集頒布方法
全卷　十二冊
毎月一回　一冊配本十月昭和六年九月終了
代金は一冊　金一圓五十錢　配本の際引替のこと
申込所　石城郡平町　賀澤忠治方
平町　賀澤忠治

皆樣の昭和タクシーは
此際 御得意樣本位に
貸切の料金 値下斷行
何卒御用命を
平驛前　電三四三(サシミ)
澤正路

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇

大販賣店
平町五丁目角
山野邊藥局

明治三十二年以來 第十回目の改選
眞に多士濟々の狀態を持續
歷代調査員の顏ぶれ

所得稅調査委員の選擧も愈々十日足らずの目睫に迫つて之れに關する新聞の報道も閭巷の風聞も漸く本調子になつて來た、さて誰を擧げたものか有權者の「ふよみき」は恐らく夙うに決まつてゐるであらうが何事にまれ故きを温ねて新らしきを知るが肝要、これまでは斯んな顏振れであつたと云ふ事を知るなども亦時節柄滿更無意味でもあるまい殊に根が顏さい出せば良い道普請の人足とは事變り苟も人の財産に深か入りしその査定檢擧に關與する重き使命の調査員を擧ぐるに於いてをや。である

第一回 は明治三十二年六月、諸橋久太郎、鈴木清靜、佐藤甚右衛門、松本與三郎、赤津庄兵衛の五氏が二十四票乃至三十七票で當選

第二回 (三十六年六月) 諸橋、松本の兩氏が再選し大平左司馬(磐崎)吉田至誠(小川)、永山泉七郎(飯野)の新顏三名が出た

第三回 (四十年) 櫛內直温、堀井正直、木村清治、酒家又兵衛、下山田嘉七の五氏全部が新顏

第四回 (四十四年)には横內、堀井、下山田の三氏が再選し松崎松治、酒井清次(渡邊)の兩氏が新に當選

第五回 (大正二年) 小野賢司、山崎與三郎、高岡隆一郎、鈴木堅助、高木喜平(錦)以上五氏

第六回 (大正六年) 小野、鈴木の二氏が再選し酒井良平、新田目善次郎、安島太次郎(勿來)氏が當選

第七回 (大正十年) 初期以來第三回目の諸橋久太郎氏の外金成通、伊藤淺之助、青沼鉾太郎、漆畑元吉氏が當選

第八回 (大正十五年) 青沼氏が再選し谷口仁太郎、赤津庄兵衛、永山和平、平松武の諸氏が當選し税法の改正により翌十五年十月の改選で當選した

青沼鉾太郎、植田榮太郎、平松武、猪狩庄平、赤津庄兵衛、野崎添藏、鷺林三以上七氏の現議員に及んだもので今回行はるゝ改選を以て恰もその十回目に當てゐる、所謂温故知新、須く之の邊を參考とし自己の信ずる人材を擧げたならば大した間違ひもあるまいと豫想される

疏水復活の前提たる 負擔金問題決定
愈々明年度に計上實施

鮫川疏水復活による地元六萬圓の負擔承認の件を附議する組合總會は六日平町各種團體事務所に縣から伊東事務官臨席の上開會されたが右六萬圓の負擔金について既報の如く兎に角の風評があつたので會議は波瀾を見るものと一般から觀測されて當日會場內高等係りの姿など見へて何となく一種の緊張味うを見せてゐた時恰も同疏水と密接なる關係を有する小名濱町は五日町會を招集して疏水復活に二萬圓を計上する件を滿場一致可決したとの情報がもたらされたので總會は六萬圓負擔の件を異議なく承認し了つて關係者有志は尼子亭に於て喜びの懇親會を開いた縣としては小名濱町の寄附ならびに組合の負擔さへ決定すれば明年度豫算に同疏水の復活を計上する方針であると

平上水道 近く着工
補助年限短縮 出縣陳情

平町の上水道擴張工事も愈々一切の準備が成り近く取水口から着工することゝなつたので町當局では國庫並に縣の補助工費年限短縮を陳情のため七日井上、青沼野崎三町會議員が出縣する事になつた

三氏送別宴
明夜尼子亭で

平町新聞記者有志は今回東京へ轉任する事になつた東北日々社長横山顯氏福島民友支局長を辭した佐藤稔氏及報知新聞平通信部から郡山へ榮轉した四十萬牛七氏の爲め役場警察の有志と共に明八日午後五時から公園尼子亭に於て祖道の宴を催す事になつた

農事傳習會
昨日分場內で

農事試驗場石城分場では昨六日午前九時から特別農事傳習會を開催稻田分場長の漬物とトマトソースの製法實際指導と本縣農具主任加藤技師の農具に關する講演があつた

石城各濱の救濟に 五十萬圓を申請
各漁業組合から

各濱が悲境のドン底に沈淪してゐるので これが打開上今回の政府融通農漁山村救濟資金によつて活路を呈せしむべくこの程縣に對しそれ〴〵希望額を申請したがその額は四組合で四十九萬圓である、その內譯は左の如くである

十五萬江名濱漁業組合、十二萬圓豐間組合、十五萬圓四倉組合、七萬圓小名濱組合

平水道委員會 平水道委員會は八日午後二時から機械器具の購入に關し平町役場で開催する

植田組頭會議 植田署管內の消防組頭會議は明八日午後一時から植田署で開催秋季檢閲其他に付いて打合せをなすと

四倉繭市場 四倉繭市場六日の取引狀况は總貫數二千七十四貫百九十匁代金三千八百七十八圓五十錢最高二圓廿錢最低一圓六十六錢平均一圓八十四錢掛目十八累計貫數三萬三千七百八十六貫三百七十匁代金六萬四千三百廿六圓三十四錢であると

神谷消防演習 神谷村消防組では七日午前五時半非常召集を行ひ平署から荒井署長、鯨岡警部補出席した

運動 飯野村尋常高等小學校にては來る十一日午前七時より同校校庭に於て青年團、處女會等參加陸上大運動會を開催

祭典 同村大字上荒川鎭座村社住吉神社例年祭は十二、十三の兩日執行さるが本年は到る所豐年萬作の爲め青年團では大々的豐年花相撲の催し其他御輿の渡御ある

四倉通信

健康週間行事 健康增進週間中に於ける四倉署管下の催しは左の通りである

一、十日より十六日迄本町元渡邊醫院跡に於て同町醫師會より出張一般無

不景氣だとて 煙草丈はやめぬ
這般の消息を物語る 平賣捌所の鑑み

平煙草元賣捌所に於ける去月中の賣上成績を聞くに口付十三萬七千九百三十七個此の代金一萬八千七百十五圓八錢兩切廿一萬千六個代金一萬三千三百十七圓二十二錢刻み一萬八千七百五個代金一萬五千二百二十四圓二十三錢外國煙草二千七百八十個代金二百五十一圓二十九錢計三十六萬九千四百三十八個此の代金四萬七千五百七圓八十二錢で個數では兩切が首位であるが比較的割安の爲金高に於ては口付が最高である、賣れ高は口付では朝日、敷島、兩切ではバット、胡蝶、チェリー、リリーエヤーシップの順、刻みはなでしこ、はぎで昨年同月と比較すれば個數で五千八百二十八個金額六百二十二圓三十三錢の增加を示し更に現況時代の大正七年の同月と比較すれば金額に於て五百餘圓の減少を示して居るが個數では少しも減少を示さない點から見れば不景氣の爲幾分安い煙草を吸ふだけで大局には何等の影響がない事を物語つてゐる因に同所の昨年總賣上高は約五十萬圓で本郡下では年にこれ丈けが煙となる譯であると

山崎時計店開業 平町五丁目山崎時計店では開

地方の人力車が 時代逆行の悲哀
◇廢車屆が續出

平署管內人力車檢査は七日一勢に行はれたが平町では卅二臺湯本五臺小名濱二臺で成績何れも良好であつたが當日廢車屆が七件に及んだと

豫算町會招集 四倉町會は來る十日午前九時より同役場內に開催五年度に於ける豫算編成の件を附議する

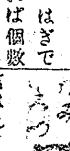
去月中驛成績 四倉驛九月中の成績は乘客人員一萬三千六百四十八人 金額四千百七十四圓二十七錢 降車人員一萬三千三百八十八人 手荷物發送三百六十六ケ 着四百九十八ケ 小荷物發送九百七十ケ 着千百四十四ケ 小荷物、手荷物の金額合計四百三十一圓十錢 貨物發送噸數九千七十五噸 着六千二百八十八噸 此の賃金三萬一千六百五十二圓五十一錢

高久校運動會 高久村小學校並に男女青年團聯合運動會は來る十六日午前八時より同校庭に擧行と決定

湯本の鼠賊檢擧 當時住所不定無職新潟縣東蒲原郡西鹿野瀬村鹿野瀬土工鹽野喜代太(三九)は三日午後八時卅分頃湯本町三函料理店野本博方裏口から忍び入り臺所の棚の上に置いた現金五十錢其他を窃取し七日平署に檢擧された

今年は頗る豐鳥
解禁あと一週間 十五日平署で願書受付

山に野に狩獵天狗連の跳躍すべき解禁の日も後餘すところ一週間の目睫に迫つたので獵銃の掃除、獵犬の手慣らし等その日の準備を急いで居るが今年は既報の如く氣候が頗る順調である爲め雉、山鳥、鴨嶋等の繁殖も夥しく、地方全般に豐鳥を傳へられ狩獵家連の意氣當るべからずで十五日の解禁には至るところ山野に銃聲が轟き豐獵の凱歌があげられるであらうといはれてゐる、因に平署の免狀下付は十五日に受付ける筈であると



◇トテモ景氣が惡いように言はれてゐるが隣の福島も、サスガ東北の尖端にあつて早く文化の風に浴する處は別だと。東北三業代表者會に出席した一人が言つてたが◇藝者の服裝も平より上なら、藝だつて踊りの師匠が毎月藤間の家元からやつて來る程だから惡からう筈はない、中でも鶴村の錦志、花よしの花丸、み鶴村のりん子などは代表的なものだらう◇平の藝者の古い踊りのタイプを思ふと、小ッ恥かしいような氣がする、チト新しい空氣を吸つて時代の流れで顏を洗つたら宜からう。誰だへ、水道の水で顏を洗つてゐるなんて言ふのは、俺は猫のやうに唾で顏を拭いてるのかと思つたせ。

投稿 (投稿歡迎)
農民の團結期

◇ 農村問題は最早議論の時ではない、その幾らか宛にても實行の歩を進める時である、現在說かれてる多くの農村問題を觀よ、一先づ與へて直に奪ふ不徹底極まる農村振興策であり救濟策である。

◇ 農漁山村へ融資される七千萬圓を見るも果して疲憊せる農村を救濟することが出來るや否やをうたがふのである、過去の幾多の政策をみるにそれが一つとして自作農以下の農民に適用されて彼等が眞に有難がつた制度があつたであらうか もしあるとせば自作農創設維持資金位のものでらあう その自作農維持資金にしても一村に果して幾人の借入者があるであらうか

◇ 農村は社會生活力の源泉である、その農村をたつき合ひの救濟策を以て救濟せんとするは根本的に既に錯誤である、住宅低利資金の如き制度を設置し、しかもそれが官吏及び吏員の大部分に利用されるを觀る時悲憤を禁じ得ない。

◇ 次に一町五段を耕作する小作人の生活狀態を參考までに述べて見よう、一段步の收獲を二石三斗(但平年作の收獲)とせば一町五段耕作して三十四石五斗を收獲する、けれどその中から地主に納めなければならないものは一步四合(地力によつて多少の相違はある)とせば一町五段にして十八石を納米せねばならない。その殘りの十六石五斗を一石二十圓に換算せば三百九十六圓である、その三百九十六圓より肥料代一段步につき六圓を要するとせば一町五段にして九十圓である即ち一町五段を耕作せる百姓の一年の收入は三百圓である、しかも一町五段を耕作せんには一家總動員にしても多忙である。月に平均せば二十五圓(勿論この中には公課をふくんでゐる!!)

◇ 農民は一致協力自分自身で解決せねばならない時期に到來してゐるのだから團結して農民の威を示すべき時ではあるまいか(友田生)

鈴木、高橋兩劍豪 晴れの戰場へ
全國警察官武道大會で 天下の猛者と鎬を削る

來る十五、十六の兩日陸軍戶山學校で擧行する全國第二回警察官武道大會の出場者はかねて紅葉山武德殿で講習を開き技を練つてゐたが出場選手は劍道柔道各五名宛で平署からは劍道四段鈴木忠正同三段高橋一郎兩氏が出席する

明日の吉凶
舊曆八月十七日 新曆十月八日

△一白の人 自ら守る事堅く又人の意見も尊重すべし △二黑の人 人のために勞をとれば其德後日に戻り來る △三碧の人 利益ありと見て手を出せしことも失敗勝の日△四綠の人 實意を以てするも夫れだけは人に認められぬ日△五黃の人 腕の限りを盡して奮闘すれば難事も享る日△六白の人 元氣沈み自由行動のとれぬ日外事は殊に凶△七赤の人 運氣の開け行く日名弘め開店建造何れも吉△八白の人 自然發展を見るの日何事も急がず徐進せよ△九紫の人 無理の通らぬ日殊に新しい事に凶多しとす

吉田眼科醫院

平町人事
△出生 平町二丁目二四靜岡縣靜岡市榮町二丁目一照月幸太郞四女弘子
△死亡 平町三町目十五宮城縣刈田郡白石町長町十四木炭商川村源(四九) 平町鎌田町卅三北海道定知郡砂川町砂川二條通五丁目平田浩(二)

早慶野球戰
勝敗豫想投票募集

全國野球フアンの待ちに待ちたる早慶戰は愈々來る十七日、十八日に神宮球場で行はるゝことになりました、弊店は親愛なる我が野球フアン諸君の興味をヨリ唆るべく左の規定に依り勝敗の豫想投票を募集致します。

一、用紙書式 官製ハガキ(住所姓名御明記の事)
第一回戰 何校の勝
第二回戰 何校の勝
第三回戰 (になりたる場合)優勝校名
一、宛名 平町田町磐城新聞社
一、〆切 十月十五日
一、當選發表 決勝戰終了翌々日 磐城新聞紙上
一、賞品 一等、二等、三等、豫想者
正解者多數の場合は抽籤を以て定む

主催 大谷時計病院 平町三丁目(電十九番)
後援 磐城新聞社

時計專門店開業
披露ノタメ特價提供
十月八日ヨリ仝十七日迄 十日間!
尙期間中は修繕無料
但し材料ヲ用スルモノハ實費ヲ頂戴致シマス。
山崎時計店 平町五丁目横吉田屋染物店向

高久病院 平町田町 電話五一三番
醫學士 高久 新潟醫學士 赤羽 藥劑士 佐竹 菊
內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

專門眼科醫師擔任
無料檢眼 無料檢眼券 御利用下さい

信用アリ正確味萬點ノ時計
御客樣本位ノ眼鏡部
平 壹 常盤屋時計店 電三三九